



㉑ 「ない」世界を理解する

京都大東南アジア地域研究研究所

連携講師 西本希呼

(フィールド言語学)



にしもとのあ 2011年京都大アジア・アフリカ地域研究研究科修了。フランス国立東洋言語文化研究所、ハワイ大学マノア校言語学科、クワラ州立大(ナイジニア)客員研究员、京都大白眉ゼンター特定助教などを経て現職。「数えない生き方」(京都通信社)を出版予定。エヌ・スマセマティックスという領域を日本で展開しようと研究活動中。

日本語に英語、アラビア語…。世界にはたくさんの言語がある。それぞれの言語の背後には特有の世界観が控えていて、多様な価値観をはらんでいる。ほかの言語を知ることで、異なる世界へつながることができる。今回の研究者はそんな営みを実践してきたという。



昨年にボリビアで実施した「数詞のない言語」の話者を探す調査

(西本さん提供)

言語や、「人間」とい

4歳(うから、「言葉」は何のためにあるのか、人は何故「普通」じゃない人を排除するのだろうという疑問を抱いていました。中学時代に学んだチエコ語とフィンランド語をきっかけに言語学の勉強をはじめ、同時に報道されていたルワンダのツチ族とフツ族の凄惨な殺し合いに衝撃を受けて以来、現在に至るまで、「私は何か」「人間とは何か」という問いを考え続けています。

現在の専門は、フィールド言語学とエヌ・スマセマティックス。エヌ・スマセマティックスでは日常生活に見られる数学的思考、文字のない社会での数概念、時代、地域、民族、文化の異なる人間集団のさまざまな数の捉え方や、自然現象や生物資源と人間との関わりを観察し分析します。

「数詞がない言語」と聞くと、最

実は、「1、2、たくさん」という数え方は、私たちのごくありふれた日常生活に見られるのです。簡単な例を挙げると、漢数字の一、二、三または規則的に横棒が増えていく数字は、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲまでは縦棒が増えていきますが、Ⅳ以後は引き算や足し算など計算を含んでいます。「唯一」「独自」「1位」「孤独」「個人」は1を表しています。「双方」「両方」「対」は2を表し、世の中には目、耳、足、手、双葉、双子、雌雄などペアで存在するものが多くあります。

数詞がなくとも、数える手段や量を把握する手段はいくらでもあります。手の跡が見え隠れたりする、石や貝や棒を並べたりする、具体的な数がわかります。実は日常のさまざまなかたの痕跡が見え隠れします。例えば、英語の「calculation」はフランス語の「calcul」を語源とします。バヌアツ共和国の通貨「バツ」も現地語で「石」という意味です。「手」という単語がそれを表す

「のない言語」を話す人が、「の」を認識や区別していないわけではありません。例えばショナ語(ジンバブエ)には、黒と白と赤しか色彩語彙はありません。では、3色しか色彩を見えていないのでしょうか? ショナ語を母語とする私の研究協力者の女性は色彩豊かな布のデザインを仕事としています。視覚で色を感じますから、個人差はあるものの、ある民族や地域の人々全てに「の色が見えない」ということはありません。過去や未来の文法標識のない言語は世界の諸言語にたくさんあります。だからといって、過去や形や未来形のない言語話者が、過去や未来を考へないわけではありません。

「自分の常識は、相手の常識ではない」一見当たり前のことが、実は私たち人間はそれをなかなか日常生活中で意識して行動できていません。人は自分にとって「ない」価値観や世界を、変わっていると排除したり拒絶したりして、時にそれが差別や紛争へとつながっていきます。「ない」世界を理解しようとすることは、相手を理解し、自分を理解することへとつながると私は思います。

異なる価値観を言語からつかむ

私は驚くかもしれません。「どうやつて数えているのか」「数える必要のない社会なのか」「数える能力がないのか」と。しかし、世界の諸言語を観察すると、「1、2、たくさん」もしくは数詞が3まで、4まで、5までの言語は決して珍しくありません。結論から言うと、数えるという行為は、時代や地域を越えて誰もが行う日常行為です。決して数詞のない(少ない)言語話者が数を数えていなかつたり、数える能力がなかつたりするわけではありません。そういった考えは、個人の経験や尺度に基づく偏見と誤解です。「何故、そして何を数えるのか」「数えると何が」「何を数えるのか」、間違つたりするわけではありません。そこを理解するために、大切です。

う單語が20を表す(手足の指の合計が20であるため)言語もあります。ボリビアでは毎日何百キロ車で走り、帰國3日前に、私が探していた言語を話す話者に出会いました。ある村の村長さんで、彼は「年齢は80歳か90歳か96歳くらい」で「私の1人の妻は他界し、孫がたくさんいる」たくさんいるけど人数は知らない」と言っています。孫の名前と個性や人格ないけれど、孫の名前と個性や人格は覚えているので、1人でもいなくなるとすぐにわかります。牛が日常生活に身近である牧畜民は、牛の個体数を数えなくても100頭以上いる牛が数頭いなくなつてもわかります。全て牛を模様や大きさや特徴の違いで把握しています。

時計がなくとも、太陽の高度や影の位置、潮の満ち欠けといった規則的な自然のサイクルを基に、同じ村社会の人は時の概念を共有し、待ち合わせをすることができます。